

# スクールセクハラ

なぜ？  
なに？

学校は子どもにとって安全、安心な場所ではなくてはなりません。けれど、とても残念ですが、一部の先生が教えるにキスをしたり、体を触ったりして辞めさせられる問題が全国で起きています。学校で起きるこうした性的な被害は「スクールセクハラ」と呼ばれます。

「いや」と言っていない

## 学校での性被害防ぐ

### 「スクールセクハラ」を防ぐために

- 迷わず「いやだ」と言っている
- どんな場面でも起きる可能性がある
- 部活動での被害が特に目立つ
- メールやLINE(ライン)もきっかけに
- 困ったら、信用できる大人にすぐ相談



わいせつ行為やセクハラで処分された教員の数などを説明する文部科学省の担当者。人数が多く「きわめて深刻」と話しました=2020年12月

ほとんどの先生はそんなことをしません。中には、子どもが「いやだな」と思うことをする人がいます。いつもは優しい先生に、信じられないようなことをされ、心に深い傷を負う子どもは、少なくありません。

2019年度に教職員の体や服装を触るなどのわいせつ行為やセクハラで処分された公立小中高などの先生は273人で、過去2番目の多さでした。国も政治家もようやく問題

の大きさに気づき、先生から教職員のわいせつ行為を防ぐための法律が5月にできました。先生を辞めさせられて教員免許を失った人が、もう一度免許を取ろうとしても、教育委員会が断れるようになりません。

この法律は、先生から教職員のわいせつ行為などを「児童生徒性暴力」と名付

け、子どもの同意があっても禁止されています。国や地方自治体、学校に被害防止や早期発見、調査を求めました。

スクールセクハラにくわしい神奈川県立大学名誉教授の入江直子さんは「相談して

学校で問題になっている性的な被害「スクールセクハラ」はどんな場面で起きるのでしょうか。

先生から被害を受けた子どもの相談に乗ってきた元中学校教員の亀井明子さんによると、授業や休み時間、給食、修学旅行など、どんな状況でも起きます。亀井さんは「男の子も被害にあうし、だれにでも起きる可能性がある」と話します。

### 部活動で特に目立つ

ただ、部活動は特に被害が目立ちます。亀井さんは「顧問の先生から『指導』を言い訳に体を触られる子はめずらしくありません」と強調します。

最近は先生とのメールやLINE(ライン)のやりとりがきっかけになることも多いそうです。

亀井さんが代表のNPO法人「スクール・セクシュアル・ハラスメント防止全国ネットワーク」(SSHPP)は毎週火曜、午前11時から午後7時まで秘密厳守で電話相談を受けています。電話番号は06(6995)1355です。

て特別扱いされ、恋愛関係のような気持ちになることもあります。でも、先生は強い力を持ち、対等でないのを忘れてはいけません。困ったら保護者や他の先生に打ち明けてみましょう」と話しています。